

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	淡路こども園		公表日 2026年 3月 23日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	1		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	3	配置数は適切である。 職員の休みが多い場合は、フォロー体制を検討し、職員間で協力している。	職員数は配置基準を満たしているものの経験者が少なく、子ども一人ひとりに十分関われないこともあるため、今後は配置や業務の工夫、研修を通じて柔軟で丁寧な支援体制の実現を目指したい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	6		施設にはバリアフリー化が十分でなく、老朽化による設備の不具合も多いため、車イスや足の不自由な子どもも安心して過ごせるよう、安全で使いやすい環境整備が必要である。将来を見据えた全面的な設備改修工事を行う予定。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	5	毎日の清掃に加え、特に感染症が流行する時期には施設内の消毒及び、職員の感染症予防を徹底している。 アリの保育室に発生することがあるため、その都度対策を行っている。	建物の老朽化による安全面の課題や園庭の遊具不足、寒暖に対応しにくい環境、子どもが落ち着ける空間の不足などのため、安全で遊びや活動が広がり、季節や気分に応じて快適に過ごせる環境づくりをめざす。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	子どもたちにとってプレイルームでの活動は楽しみになっている。 子どもが落ち着けるよう、必要に応じて個別の部屋を使用している。	雨の日など、子どもが個別に過ごせる部屋が不足しているため、状況に応じて落ち着いて過ごせる空間の確保が課題である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	2	PDCAサイクルを意識して業務に取り組めるよう心がけている。	PDCAサイクルを全職員に十分周知するために、会議や共有ツールを用いる等して、全員が理解・実践できる体制をつくる。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	セミナーや行事後、口頭やアンケートで保護者の意向を把握している。	課題は把握しているものの、改善が十分にできていない点もある。職員一人ひとりが当事者意識をもって、業務に当たり実践までつなげる体制の強化が必要である。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	風通しが良く、耳を傾けてもらっていると感じる。反映も早い。気付いた所は、報告するようにしている。 職員会議、主担会議、朝礼、終礼で職員の意見等を把握するように努めている。	現場の職員の意見をすくい上げて職員が主体となり、積極的に業務に当たれるよう風通しの良い職員集団を作りをしたい。 定期的な面談を行い、職員の声を把握する。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	2		第三者評価の導入時期について検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	園内や法人全体で定期的に研修を行い、学びや意見交換を行っている。	一人ひとりの職員が主体的に参加できる研修を計画・実施し、子どもへの理解をより一層深めていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0		

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	保護者にアンケートを配布し、気持ちやニーズ、現状を聞き取ったり、日々話を聞いている。	内容についてはブラッシュアップされるように改善に努め、職員内での共有と保護者の意向を日頃から把握するようにして作成したい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	クラス内職員やサービス会議を通じて、子どもの様子を共有し、共通認識を持てるよう努めている。	時間の確保が課題ではあるが、子どもを中心とした支援の実践に向けて、今後さらに工夫していきたい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0		クラス全体で共通理解をするために支援計画をもとにクラス討議、ケース討議を今後さらに積み重ねていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0		個々の子どもの特性や状態に合わせて、より細やかな支援につながるようアセスメントを大切にしていきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0		支援内容についてわかりやすい説明を心がけ保護者の理解を得て、協力して子どもを支援できるよう努力したい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	各クラスで話し合うように心掛けている。主担当がメインとなり、子どもの様子から活動を考え実施している。クラス内で行っている。	クラス職員が集まる時間が確保しにくい場合は、短時間でも定期的な打ち合わせ時間を確保し、連携を図る。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	2	季節や子どもの興味、理解度に合わせて、固定化しないように工夫している。	現状は十分に実施できていないため、法人内施設との連携も視野に入れながら、日ごとに内容を工夫し、職員間で振り返りを行う。音楽活動など新しいプログラムも取り入れていくよう努めていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	全体の活動に入りづらい子には、別の活動を準備したり、本人のペースで入れるような声かけをしている	集団活動、個別活動の両方についてその子どもにとってどうだったかを日々振り返り、必要な支援や配慮につなげたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	曜日ごとに、進行や連絡帳への担当を決めている。活動内容を共有している。	話し合いの時間が取れない時もあるという意見があった。連絡ノート等の共有ツールを用いて情報共有を行い、職員間で共通認識をもって支援に入れるようさらに工夫が必要。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	3	難しかったケースについて、相談や報告を行い、次の関わりにつなげている。支援終了後はデイサービス援助があるため、話せる時にその都度共有するようにしている。	日々の業務や時短の職員もいるため、時間の確保に苦労しているが、対面だけでなく他のツールも利用して振り返りと次の課題、目標の共有をしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		若手職員へのフィードバックをはじめ、職員間のコミュニケーションを通じて支援内容の検証を行っている。	検証・改善に向けた十分な時間の確保が難しいが、情報共有ツールなどを用いて今後さらに取り組んでいきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1	家族支援を通じて本人の状況を細かく把握し、発達に応じて支援内容を見直している。	十分なやりとりが難しいケースについては、その背景を十分検討し、支援を通して職員と家族が改善の手ごたえを共有できることを目指していきたい。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	家族支援を通じて本人の状況を細かく把握した職員が参加している。	体制上、求められる職員の参加が難しい場合は、十分な引継ぎや情報共有を行う。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	自立支援協議会に参画しており、取り組みについての情報交換を行っている。	各関係機関の担当者の方と、顔なじみの関係を築き、今後さらに連携を深めていきたい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	子どもの発達状況を丁寧に見極め、一人ひとりにとってどのような支援が必要か、きめ細やかに検討し、保護者と共に支援を組み立てています。引き継ぎの資料を作成し、就園先の職員に子どもの様子を見に来てもらい、直接話す機会を作っている。	理念や考え方、目指す支援の違いを尊重しつつ双方の意見を共有し、信頼関係を築きながら、子どもにとって適切な支援のあり方を共に検討していきたい。

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	引き継ぎの資料を作成し、就学先の職員に子どもの様子を見に来てもらい、直接話す機会を作っている。 引継ぎ資料として「あゆみ」を作成。本人の特性や課題を口頭でも伝えている。	理念や考え方、目指す支援の違いを尊重しつつ双方の意見を共有し、信頼関係を築きながら、子どもにとって適切な支援のあり方を共に検討していきたい。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	7	2	連携、協力し合えるように心がけている。考え方、視点の違う事業所もあるが、自立支援協議会子ども部会への参加が増え、地域全体の質の向上につながっていると思う。	理念や考え方、支援方針の違いを尊重しつつ意見を共有し、各関係機関が信頼関係を築きながら、子どもにとって適切な支援のあり方を共に検討していきたい。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	8	1		日々の業務の中で職員に外部研修への参加を促すことが難しい現状があるため、職員体制を整えながら、今後はより積極的に参加できるよう工夫していきたい。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	0	センターとして積極的に参加している。	顔の見える関係を基盤にして、今後も地域福祉の資質向上に貢献していきたい。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	3	区の自立支援協議会をはじめ、市の障がい児者施設連絡協議会等で、取り組みについての情報交換を行っている。	今後さらに関係機関との連携を強め、支援困難なケースへの対応や課題についても積極的に相談・共有を行いながら、地域全体の支援力の向上に努めていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	5	クラス遠足などで外出した際に交流がある。地域との交流の機会は多くないが、町会に加入している。	今後は「ふれあいまつり」を地域に開放するなど、住民との交流の機会を広げられるよう努めていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	送迎時に一日の様子を伝えるほか、火曜日の親子通園では子どもとの発達状況や課題と一緒に確認したり、相談に応じたりしている。また、連絡帳・電話などを通じて都度情報を共有している。	十分な支援が行き届いていないケースについては、今後さらに関係性を深め、保護者の意見や考えを尊重しながら、子どもにとって安心できる環境や関わりのあり方を共に考えていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	定期的な子育てセミナー、グループ相談等を通じて、子どもの立場に立った理解、子育ての悩み、困難への対処、家族の相談力を高める援助などを積極的に行っている。	子どもを中心とした支援を基本としつつ、保護者のニーズを汲みとり、アセスメントし家族の力の向上につながるよう取り組んできた。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	保護者が理解しやすいよう、丁寧な説明を心がけている。	今後もわかりやすい丁寧な説明を心がけていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	常に本人主体、家族支援の視点を大切に支援計画を作成している。	本人や家族の意向を十分に反映できているか、その都度確認して、不十分な時は適切に対応したい。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0	支援計画は必ず説明する時間を取り、同意を得ている。	今後もわかりやすい丁寧な説明を心がけていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	ニーズに応じた個別相談や電話相談に加え、連絡帳の記述からも保護者の状態を気にかけて、職員から話す機会を積極的に設けている。	今後も専門家や地域の関係機関とも連携、協力して支援していきたい。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	1	保護者会が企画する茶話会を手伝っている。親子日や友の会など保護者が交流する機会がもてるよう工夫している。	きょうだい同士が交流する機会が十分とは言えないので、今後は「きょうだい」に向けた取り組みを実施できるように努めたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	家族の状況に気を配り、柔軟に対応している。	積極的に保護者とコミュニケーションをはかり、保護者から相談しやすいような関係づくりを心がけたい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	インスタグラムの発信を始めている。「園便り」を楽しみにしている子どももおり、定期的な配布が根付いていると感じる。	子どもや保護者により楽しみに見てもらえるよう、内容や更新頻度を上げて発信していきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	写真を掲載する際は個別に確認を行い、個人情報や写真の取り扱いについても十分配慮している。	保護者の協力のもと、個人のスマートフォンによる写真や動画の撮影は原則ご遠慮いただいている。子どものプライバシー保護の観点から、今後も継続して取り組んでいく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	園便りを基本とし、親子通園時のやりとり、個別相談、定期的なグループ相談を通じて、情報の伝達を行っている。	保護者への情報伝達については迅速な対応を意識しているが、十分でない点もあるため、より一層の速やかな共有を図り、安心につながる対応を心がけたい。

	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	5	こども食堂へのボランティアを派遣している。	保護者や子どものニーズや意思を確認した上で、地域の公園や行事に参加する機会を増やす。「ふれあいまつり」においては、地域開放に向けた体制整備に努める。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	毎月避難訓練を実施し、親子通園日にも行うことで、保護者にも緊急時の安全意識を高めてもらえるよう努めている。	送迎時の訓練や、施設外での非常時を想定した訓練を行っていききたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	職員研修の際に備蓄品の在庫確認や発電機の使用方法の確認を行い、非常災害時に備えて職員間で検討する時間を設けている。	職員全員が、非常時の対応について熟知し、実際に対応できるよう、計画的な研修を行う。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	看護師が中心となって、子どもの健康について情報収集を行い、不明な点については嘱託医にも相談する等して本人や保護者だけでなく職員も安心して療育ができるように配慮している。	緊急時の対応として、看護師不在時には判断や対応を連携医と相談し、指示を受けながら対応するようにする。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	療育現場の職員、看護師、厨房職員で医師指示書をもとに情報共有し、対応について打ち合わせを行っている。万が一を想定して事前に保護者と対応について確認している。	アレルギー対策は実施しているが、偏りがちな食事提供については、対策を徹底しつつ今後は柔軟にメニューを検討・提供していききたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1		職員一人一人が安全計画についてしっかりと理解したうえで、保護者にも周知の徹底をはかりたい。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1		職員一人一人が安全計画についてしっかりと理解したうえで、保護者にも周知の徹底をはかりたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	大きな事故やケガに繋がらないよう、その日のうちに情報共有し、対応策についても周知するようにしている。	職員個人の問題に留めず、職員同士で支えあい、協力し合う雰囲気づくりにつながるように継続して取り組む。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	義務づけられた研修に加え、職員の人権意識を高めるため、会議やミーティングの際に「気になる関わり」の段階で共有・振り返りを行い、虐待につながる可能性のある芽を早期に把握し未然に防ぐよう努めている。	若手職員に対して現場での指導や研修を実施し、子どもへの理解や人権意識を高めることで、一人ひとりの資質向上に努めていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0	毎月の虐待防止委員会では、実施状況の確認や対応に困った場面の共有を行い、保護者への説明を踏まえて計画に反映している。	若手職員をはじめ、全職員が子どもへの理解や人権意識を高めるべく、研修や職員会議で情報共有を行っていく。